

新宮山彦ぐるーぷ 第1782回

## 行仙宿・笠捨山迄の倒木処理と

### 間伐材の皮剥ぎ運搬集積作業

◇実施日 平成26年10月18日(土)～19日(日)

◇参加者 18日帰り；野間 清、畑林清子、更谷阿希子、

梶野照雄。

1泊2日；川島 功、沖崎吉信、生熊敏男、

児嶋道夫、青木充宏(前泊)、田中稔昭、

大門健一、他1名(渡辺昌弘) 計12名

新翔高校の生徒さんは、体調不良により野間先生のみ参加。

登山口に着くと、前泊した青木氏が荷上げに下りて来て下さり、梶野氏が参加され既に登って行かれたとのこと。田中さんと友人の大門(西宮市)さんは、昼過ぎに登って来られる。

チェンソー2台、食料、沖崎氏寄贈の衣装缶、児嶋氏はLED照明改造資材等を手分けして、背負子・ザックに詰める。

先日、福岡県柳川市の吉開賢淳師(千乗院)から、樹齢250年以上のご神木存在の甘柿が、今年は豊作でその長寿の生命力と福の恵みに預かって頂ければと川島に送って頂きましたので、その恩恵に預かるように各参加者に配る。

本日の作業は、速渡氏が笠捨山迄の奥駈道に約40cmの倒木が1本あるが、横を迂回出来るとの伝言が以前にあり、台風18号・19号が相次いで紀伊半島に接近した事から、新たな倒木がないか確認処理作業班と行仙宿東側の斜木杉の伐採及び間伐材の皮剥ぎ運搬集積班に分れ作業する旨の作業内容が沖崎氏からある。

行仙宿に着くと水汲みを終えた梶野氏が待機。



作業指令と初顔者等紹介 第二ベンチ休憩・衣装缶担ぐ青木氏  
行者堂に吉開師から頂いた甘柿を供えて、生熊さん導師にて般若心経を唱え峰中・作業安全を祈願する。

笠捨山迄の奥駈道の整備点検班は、川島・児嶋・野間・梶野・畑林・更谷の6名が行く事になる。

更谷さんは、新春初登山後、結婚され埼玉に移住されたが、帰省の折に山に行きたいと連絡があり2回目の参加。夫妻で時折登っているとのこと、遅れることなく歩かれた。



コルからの急登！ 笠捨山手前尾根で休憩 チェンソーで倒木処理  
快晴のため、スッキリ遠望できる。紅葉は始まっているが、

台風で葉が少なからず痛んでおり、今後素晴らしい紅葉は望めないように思う。

道に横たわる腐木や枯れ枝を除去、小径木は手鋸で処理しながら辿る。笠捨山手前の鞍部付近にてチェンソーで斜木の枯木を伐採処理(速渡氏指摘の倒木?)。これ以外に大きな倒木処理が無く、台風による被害は殆んど無い様に感じた。

電波平面反射板のある笠捨山・東峰からの眺望を堪能し、蛇崩山・茶臼山分岐のやや赤く紅葉の元で記念撮影後、西峰の二等三角点の笠捨山山頂に戻り昼食。

山頂の道祖神は、長野県の速渡さんにより修復されていた。



東峰の紅葉



笠捨山山頂で記念撮影



旧通信道(鉄塔順視路)

葛川辻へと下る。先般この急斜面の奥駈道は、足場が少なく木製段差設置必要性を感じ懸案事項としていたが、その後豪雨による道への雨水の流れ込みが無かったのか、段差設置の必要がないと今回判断された。但し、雨水が道へ長く流れ下らないように、逃がし水の溝を設置する必要がある。

鉄塔順視路(旧通信道)を辿ると直ぐに倒木があり、チェンソーで処理する。

斜面を横切る様に作られた道は、所々崩土により栈木が浮き流れ、その上杭が霜柱で浮き足場の崩れそうな所が多い。又、

猪が掘り返した所もあり慎重に辿る。

No.24 鉄塔で小休止後、支谷に架けられた不安定な鉄製橋を渡り、程なく奥駈道分岐に出るから池付近に戻ると、午後から登って来た田中・大門氏と逢い、間伐材の皮剥ぎ運搬作業班が作業している。尚、午前中、行仙宿東側の斜木杉を3本伐採し佐田の辻に運搬後、間伐材処理して下さっている。

「休憩しようや!」と声をかけ行仙宿に入り、お湯を沸かす。佐田の辻ベンチに大きなザックを置き、見慣れない青年が作業を手伝っている。京都のカヤ葺き職人・渡辺氏は、吉野から奥駈中で弥山小屋が閉まっており、深仙小屋が寒かった事もあり、今夜は暖かく懇親会があるからとの青木氏の誘いに応じた事が後で判る。

畑林さん差入れのカリントドーナツでコーヒーを飲み休憩するが、間伐材作業班が休憩に来ない。

しばらくすると、沖崎氏が枝を手鋸で切ろうした際に、勢い余って左親指横を切創したと戻って来る、かなり血が出ている。川島と同じ大怪我かと思われたが、消毒と傷口に付かないテープで止血・包帯の救急処置をする。止血し大丈夫との事で少し安堵する。

児嶋さんLED照明を野間氏、その後田中氏を助手にして交換して下さる。国道425号線の時間帯通行制限の為、16時過ぎに日帰り組が下山する。

17時頃から夕食の鍋料理の準備は、青木氏主体でして下さる。行仙宿が初めての大門・渡辺氏が水汲みに行かれ戻った来られ、ビールで乾杯。

鍋材料に里芋・ちしや菜と肉味噌(川島)、鮪の干物(生熊)、琵琶湖名産の鮒ずし・漬物(児嶋)が差入れされ、刺身(中トロ、アジ・ヒラメ)。カツオ、イカもあり、豪華な夕食を囲み賑やか

な宴となる。怪我した沖崎さんは、ビールは控えられと思つたら、傷口が疼かないと普段と変わらない。

20時に一次会終了、煙たくないストーブを囲んで二次会となり、早朝出発の渡辺氏も居り21時就寝。



豪勢な料理で懇親を深まる

## 10月19日

青木氏は、早朝発の渡辺氏と同時に起き、色々アドバイザーや朝食を手伝って居られる。

朝食は、鍋の残り汁によるうどんと夕食で残った焼おにぎり。7時半より青木・沖崎氏は食事後の後始末。生熊・川島で荘川桜周辺の除草と斜木杉1本追加伐採。田中、大門、児嶋氏は室外の周辺掃除と薪材を運搬し薪割り。その後児嶋氏以外でから池側の間伐材の皮剥ぎと運搬集積作業をする。

桧間伐材は、伐採後1年になり、皮下に虫がかなり付いているが、皮は簡単に剥がれる。立木を利用して5箇所を集積する。

9時半頃休憩していると、笠捨山へ行く登山者が通り、コーヒー飲まないかと呼び止める、なんと川島の勤務先(北越紀州株)の後輩・鈴木氏とのこと。新潟生まれで転勤して紀宝町に住み一人で南奥駆道を歩いているとのこと。今後当るーぶに参加してくれることでしょう。

寸検していないが約30本強の間伐材を処理して11時半過

ぎに作業を終える。

昼食は、缶詰パンと真砂氏差入れのドリップコーヒー。ロケット・ストーブ下に断熱材のパライトがこぼれているので点検すると、中のステンレス材煙突が溶けて穴が開いている。児嶋さん修復方法を検討して下さる事になった。

13時過ぎにガス缶等の不燃物とゴミ、ビール1箱を手分けして持ち下る。登山口で流れ解散とする。



皮剥ぎ運搬集積作業ご苦労さん！

下山前の記念撮影

## 行動タイム

10月18日(土) 快晴

新宮6:45→8:30 登山口8:45→9:35 行仙宿10:00→11:50 笠捨山(昼食)12:30→13:00 葛川辻→No24 鉄塔 14:05→15:05 行仙宿。

日帰り組 16:00 下山。

10月19日(日)、室外10℃・室内17℃。晴。

起床6:00。7:30↓作業→11:40 行仙宿(昼食・室内清掃)13:10↓13:50 登山口(解散)13:55→16:00 新宮

**寄贈品** ・ 衣装缶；沖崎吉信。 ・ ビール1箱；田中稔昭。

・ LED新規電球；児嶋道夫。 ・ 甘柿10kg；吉開賢淳師。

・ 尾呂志米3kg+ドリップコーヒー1袋；真砂民雄。

・ 手鉦1個；梶野照雄。

(記 川島)